



- Link “新風”

Vol.43
(通算 第136号)

梅雨明けが待たれる今日このごろですが、皆さんいかがお過ごしですか？
いよいよ夏の到来です、夏休みの予定は決まりましたか？



『千本ビーチアート』

今月の表紙

これは石に色をつけているのではなく、その色の石を探してきて
はり絵のようにしています。
(以前、静岡新聞OR沼津広報に掲載されていました。)

写真投稿 製造部 白鳥部長

撮影日時: 2011年5月7日 撮影場所: 沼津市千本浜

心のありよう

今期、40期もあと2ヶ月となり何かと慌たしさを覚えるこの頃である。過ぎし10ヶ月を振り返るとき先ず思うことは、45期、50期へのスタート台に立ったということ。今後も粉体ハンドリング事業を生業としていくが、過去の財産を整理・整頓・再加工し、市場が求める製品を提供・開発していき、利益指向を展開できる体質改善をはかっていきたい。若い人材が悪戦苦闘していることはありがたいことで、メーカー人として早く信頼される人材に育つようにしなければと思う。共育で最も大事なことは、土壌であると常々考えている。難しいことではなくきわめて簡単なことで、例えば、ゴミを拾う、洗面所の汚れを取る、目についた草を取るというような行為が自然とできるようになるといい。自宅ではやるが会社ではできない、組織の中にいるとどうしても他人任せが横行してしまう。もっと突き詰めると、自分の得(利益)にならないことはやらないということか。いまはそんなことを言う人はいないが、私が社長になる前で随分昔のことで、ある委員会への所属を求めたところ、自分の利益にならないからイヤだという人がいた。その人は、結局は満足されるような仕事ができなかったように思う。すぐに得にはならないけど自分の“徳”になるということが大事だと思う。いわゆる徳を積んでいくと自分の心が豊になるし、自然と他人から信頼されるんじゃないかと。組織にあってはいつも他人のためにと感謝、感謝がいい。損な行為ではなく、尊な行為とも言えるのかな？

さて、今期はなんといっても3.11が重大な出来事であった。まもなく4ヶ月が経過しようとしている。被災地では、様々な問題、課題が浮き彫りになってきているが、一刻でも安心できる生活を取り戻して欲しいと願うばかりだ。この大震災を通して心のありようが問われている。すなわち文化の中に埋もれてしまった日本人の心を見直す良いチャンスであると。このことは、いつまでも忘れてはならないことだと思う。

先月の6月下旬、30を超した日が7回、そのうち最高気温が36.5と本当に暑い日が続いている。それでは昔の気温はどうなっていたのだろうかと過去の記録(静岡の記録)を紐解いてみると50年前の1961年6月で30を超した日は1日間のみで31.3、1970年はゼロ、1980年は4回で最高33.7、1990年は3回で37.5、2000年はゼロ、2010年は5回で32.4となっている。年々暑くなっているのは事実だが、一方私の体は文明の恩恵を受け心身とも年々軟弱になっている感がある(勿論、齢を重ねたこともあるが)。思うに、夏大好き人間の私だから暑くて当たり前なのだ…として暑さを享受することも暑さ対策になると勝手に思っている。ご安全に！

社長 赤堀 肇紀

